

アレチウリ

分類群	植物	原産	北アメリカ
学名	<i>Sicyos angulatus</i>	分布	山麓の河川敷に普通。松田町寄がもっとも奥地の記録で、いまのところ丹沢山中には進出していない。
科名	ウリ科		
区分	防除種A		
特長	ウリ科の一年生草本で、生育速度が非常に速いつる性植物である。	侵入経路	アメリカやカナダからの輸入大豆に種子が混入し、豆腐屋を中心に拡大したと言われている。
影響	競合、駆逐	防除方法	実践の選択的除去を発芽期間の春から秋にかけて数回行う。
その他			

オオキンケイギク

分類群	植物	原産	北アメリカ
学名	<i>Coreopsis lanceolata</i>	分布	山麓に稀。1980年代に清川村の採集記録がある。
科名	キク科		
区分	防除種A		
特長	キク科の多年生草本で、高さは0.3～0.7m程度である。	侵入経路	ワイルドフラワー緑化等に広く利用された。
影響	競合、駆逐	防除方法	梅雨時に刈り払い、結実を防ぐ。
その他			

タカサゴユリ(シンテッポウユリ)

分類群	植物	原産	台湾
学名	<i>Lilium formosanum</i>	分布	
科名	ユリ科		
区分	防除種A		
特長	多年生草本。地下の黄色味を帯びた百合根状の鱗茎から1.5mほどの線形の葉をやや密につける。花の内部は乳白色、外側は紫褐色を帯びる。	侵入経路	大正時代に観賞用として導入された。
影響		防除方法	抜き取りや刈り取り
その他			

メリケンカルガヤ

分類群	植物	原産	北アメリカ
学名	<i>Andropogon virginicus</i>	分布	全国的に増加傾向のある帰化植物で、上流域の河川や崩壊地などに進出する可能性がある。
科名	イネ科		
区分	防除種A		
特長	イネ科の多年草で、高さ0.5～1m、染色体数 $2n=20$ 、変異が大きい植物で、亜種、変種などの報告が多数ある。	侵入経路	家畜飼料や園芸用土から侵入した。
影響	競合、駆逐	防除方法	刈り取り、耕耘、窒素肥料施肥、枯れ草の焼却、家畜の放牧
その他			

シナダレスズメガヤ

分類群	植物	原産	南アフリカ
学名	<i>Eragrostis curvula</i>	分布	山麓の路傍に普通に見られるほか、斜面の緑化に使われ、それに由来するものが、上流域の河原や林道沿いに見られる。
科名	イネ科		
区分	防除種B		
特長	イネ科の多年草で、高さは0.6～1.2m程度で、叢生して密な大株となる	侵入経路	砂防用の緑化植物として導入された。
影響	競合、駆逐	防除方法	抜き取りや表土の剥ぎ取り
その他			

アメリカセンダングサ

分類群	植物	原産	北アメリカ
学名	<i>Bidens frondosa</i>	分布	山麓の水湿地に普通。林道にそって河川の上流域にまで上がっている。また、登山者に運ばれたものが、丹沢山山頂でも採集されている。
科名	キク科		
区分	防除種A		
特長	一年生草本。全体は暗紫色でよく分岐し、高さは0.5～1.5m、葉は複葉で、小葉は三角形をしている。花は黄色で、種子繁殖する。	侵入経路	大正時代に侵入したとされている。非意図的導入とされているが経路は不明。
影響		防除方法	抜き取りや刈り取り
その他			

オオアレチノギク

分類群	植物	原産	南アメリカ
学名	<i>Conyza sumatrensis</i>	分布	山麓の路傍に普通。
科名	キク科		
区分	防除種A		
特長	越年生草本で、茎は直立し上方で分岐する。高さは0.8～1.8mで種子繁殖する。葉はアレチノギクより幅が広く、つきかたはヒメムカシヨモギより複雑に見える。ロゼットを形成する。	侵入経路	大正時代に渡来したとされる。非意図的導入、混入などの説があるが、詳しい経路は不明。
影響		防除方法	抜き取りや刈り取り
その他			

ダンドボロギク

分類群	植物	原産	北アメリカ・熱帯アメリカ
学名	<i>Erechtites hieraciifolius</i>	分布	シイ・カシ帯～ブナ帯下部の林道路傍、伐採跡地、崩壊地などに普通。
科名	キク科		
区分	準・防除種A		
特長	一年生草本。茎は直立、上部で分岐し高さ0.5～1.5mである。葉が基部で茎を抱くこと、花序は直立して下向きにならないことでベニバナボロギクと区別できる。	侵入経路	1930年代に愛知県に侵入したのが最初と言われている。経路は不明だが、伐採跡地に他の植物が生えるまでの間だけ存在する、食用になるなどの説がある。
影響		防除方法	刈り取り
その他			

ハキダメギク

分類群	植物	原産	北アメリカ・熱帯アメリカ
学名	<i>Galinsoga quadriradiata</i>	分布	山麓の路傍や畑地に普通。標高の高い所では大山山頂でも採集されている。
科名	キク科		
区分	準・防除種A		
特長	一年生草本で、よく分岐し高さ約0.5mになる。葉は卵形で頭状花は黄色。種子繁殖で、条件が良いと年間に数回世代交代をする。酷似するコゴメギクとは舌状花のそう果に冠毛を欠くことで区別される。	侵入経路	大正時代に東京で見つかったと言われているが、非意図的導入と言われているが侵入経路は不明。
影響		防除方法	抜き取りや刈り取り
その他			

ウラジロチチコグサ

分類群	植物	原産	南アメリカ
学名	<i>Gnaphalium spicatum</i>	分布	県内分布が拡大している帰化植物。幽神ロッジ付近に入り込んだ。山北町幽神で標本が採取されている。
科名	キク科		
区分	準・防除種A		
特長	多年生草本で、茎は基部から横に分岐してそう生し、高さ0.8m程になる。短いストロンで分株を生じる。花は直径4mm程で、光沢のある黄緑色をしている。	侵入経路	1970年代に帰化したとされているが、詳しい経路は不明。
影響		防除方法	抜き取りや刈り取り
その他			

ブタナ

分類群	植物	原産	ヨーロッパ
学名	<i>Hypochaeris radicata</i>	分布	東～南側山麓に普通。標高の高い所では棚沢の頭で採集されている。
科名	キク科		
区分	防除種A		
特長	多年生草本。全体に剛毛があり、葉は根生してロゼットを形成し、縁は不規則に切れ込む。0.8m程の花茎を伸ばし、よく分岐して先端に黄色いタンポポ型の頭状花を着ける。	侵入経路	昭和初期に北海道で発見されたと言われている。輸入された牧草の種子または飼料の中に、混入していたこの種子が、発芽して定着したものと考えられている。
影響		防除方法	不明
その他			

ヒメジョオン

分類群	植物	原産	ヨーロッパ・北アメリカ
学名	<i>Stenactis annuus</i>	分布	山麓の路傍や草地に普通。標高の高い所でも人為的な攪乱があると入り込んでいる。
科名	キク科		
区分	防除種A		
特長	一年生または二年生草本。根生葉は卵形でロゼットを形成する。茎は直立して上部で分岐し、高さ1.5m程になる。葉が茎を抱かないことや、茎が中実、花序が上向くことでハルジオンと区別できる。	侵入経路	1865年頃に観賞用として導入された。
影響		防除方法	抜き取りや刈り取り
その他			

ヤナギバヒメジョオン

分類群	植物	原産	北アメリカ
学名	<i>Stenactis pseudo-annuus</i>	分布	シイ・カシ帯～ブナ帯の草地に稀。以前より採集されていたが、丹沢1997のリストでは記録されなかった。
科名	キク科		
区分	準・防除種A		
特長	ヒメジョオンとヘラバヒメジョオンの自然雑種のひとつ。ヒメジョオンに比べて葉が細く、鋸歯が低くて目立たない。葉色が濃く、葉縁が裏側に反る。	侵入経路	江戸時代末期に、牧草種子に混入して侵入したとされている。
影響		防除方法	抜き取りや刈り取り
その他			

ヘラバヒメジョオン

分類群	植物	原産	北アメリカ
学名	<i>Stenactis strigosus</i>	分布	林道沿いにかなり山奥まで侵入している。
科名	キク科		
区分	準・防除種A		
特長	越年生草本で、長い柄を持つひ針形の根生葉はロゼットを形成する。中実の茎は上部で分岐して高さ1mに達する。多数の頭状花を着け、蕾は下垂しない。ヒメジョオンとほぼ同様の場所に生育する。	侵入経路	大正時代に帰化したとされている。侵入経路は不明。
影響		防除方法	抜き取りや刈り取り
その他			

セイヨウタンポポ

分類群	植物	原産	ヨーロッパ
学名	Taraxacum officinale Weber	分布	山麓の路傍に普通。大山、丹沢山、蛭ヶ岳など登山者の集まる山頂にも生えている。
科名	キク科		
区分	準・防除種A		
特長	多年生草本で、太い根の上部の短縮した根茎から多数の根生葉を出す。年間を通して花茎を出し、舌状花のみからなる黄色の頭状花を付ける。外側の総苞片が外側に反り返る。	侵入経路	19世紀に飼料として導入されたという説、食用タンポポとしての種子の市販、緑化剤としての導入などの説がある。
影響		防除方法	不明
その他			

ハリエンジュ

分類群	植物	原産	北アメリカ
学名	Robinia pseudoacacia	分布	山麓の河川に多く、砂防用に使われ、奥地まで入り込んでいる。
科名	マメ科		
区分	防除種B		
特長	夏緑高木で、高さは25mにもなり、耐暑性、耐乾性があり、蜂蜜の供給源で、鳥類等に生息環境を提供する。	侵入経路	砂防樹種、街路樹等の緑化剤として導入された。
影響	競合、駆逐	防除方法	薬剤
その他			

コメツブツメクサ

分類群	植物	原産	ヨーロッパ～西アジア
学名	<i>Trifolium dubium</i>	分布	山麓の路傍に普通。
科名	マメ科		
区分	準・防除種A		
特長	一年生草本で、茎は基部でよく分岐して高さ40cm程になる。葉は長さ1cmほどの3小葉からなり、3mmほどの黄色の蝶形花を数個固めて付ける。花穂が小さいことでクスダマツメクサとは区別できる。	侵入経路	海外から導入された飼料作物の種子に混じって持ち込まれたのではないかとされている。
影響		防除方法	抜き取りや刈り取り
その他			

シロツメクサ

分類群	植物	原産	ヨーロッパ
学名	<i>Trifolium repens</i>	分布	路傍に普通。登山道沿いの緑化に種子が蒔かれたため、標高の高い所でも記録されている。
科名	マメ科		
区分	準・防除種B		
特長	多年生草本。茎は地表を這って節から発根し、よく分岐してマット状に広がり、長さ1m程になる。葉は先端の凹む倒心臓形の3小葉からなる複葉で、互生する。長さ1cm程の白色の蝶形花を球状に付ける。一般にはクローバーと呼ばれる。	侵入経路	牧草として導入された。
影響	競合、駆逐	防除方法	抜き取りや刈り取り
その他			

コシキソウ

分類群	植物	原産	北アメリカ
学名	<i>Chamaesyce maculata</i>	分布	山麓の路傍に普通。標高の高い所では大山山頂や玄倉川熊木沢で採集されている。
科名	トウダイグサ科		
区分	準・防除種A		
特長	一年生草本。茎は地面を這い、長さ10～25cmになる。種子繁殖する。葉は対生で、長さ5～10mm、幅2～4mmの長楕円形。表面に暗紫色の斑紋があることでコシキソウとは区別できる。	侵入経路	明治時代に帰化したとされているが、非意図的導入と言われているが、詳しい侵入経路は不明。
影響		防除方法	抜き取りや刈り取り
その他			

メマツヨイグサ

分類群	植物	原産	北アメリカ
学名	<i>Oenothera biennis</i>	分布	山麓の路傍や河川敷に多く、奥地では林道の路傍や砂防施設の周辺に見られる。
科名	アカバナ科		
区分	防除種A		
特長	二年生草本。オオマツヨイグサに類似するが、根生葉の先が尖り鋸歯が多いこと、葉の中央脈が赤みを帯びることで区別できる。夏から秋にかけて直径2～5cmの黄色の4弁花を付ける。	侵入経路	1920年代に観賞用として導入された。
影響		防除方法	抜き取り刈り取り
その他			

オオマツヨイグサ

分類群	植物	原産	北アメリカ
学名	<i>Oenothera glazioviana</i> Micheli	分布	林道の路傍や法面に稀。
科名	アカバナ科		
区分	防除種A		
特長	二年生草本。根生葉は有柄、広ひ針形で先端は円く、ロゼットを形成する。高さ1.5m程になる。茎生葉は無柄で先が尖り、互生する。夏に黄色の4弁花を付ける。	侵入経路	園芸種として導入された。
影響		防除方法	抜き取りや刈り取り
その他			

タチヌノフグリ

分類群	植物	原産	ユーラシア(広域)
学名	<i>Veronica arvensis</i>	分布	山麓の路傍や土手などに普通。
科名	ゴマノハグサ科		
区分	準・防除種A		
特長	越年生草本で、高さ30cm程になる。葉は卵形で対生する。春に直径4mm程の4裂した青色の花を付ける。	侵入経路	明治初期に帰化したとされるが詳しい侵入経路は不明。
影響		防除方法	抜き取りや刈り取り
その他			

ヘラオオバコ

分類群	植物	原産	ヨーロッパ
学名	<i>Plantago lanceolata</i>	分布	山麓の路傍に普通。標高の高いところでは、表尾根の三ノ塔で採集されている。
科名	オオバコ科		
区分	準・防除種A		
特長	多年生または一年生草本。根茎から長さ30cm程の広線形～倒ひ針形の葉を多数出す。葉は全縁で毛がある。夏に高さ50cm程の花茎を出し、その先に4裂した長さ8cm程の穂を付ける。	侵入経路	江戸時代に帰化した。非意図的導入によるものと言われているが、詳しい経路は不明。
影響		防除方法	
その他			